

学校紹介

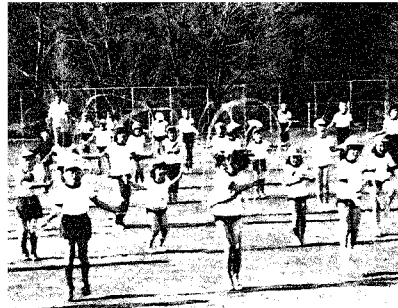
シリーズ ⑨



都留文科大學附属小学校は都留市大野三九六番地(海拔五八二m)に所在しています。この学校は、昭和四十年四月に都留文科大學の教育スタッフと学生の教育実践校として、古い歴史をぬりかえて再スタートしました。

児童数一一九名と小じんまりした規模と大学と比較的距離が近いことから、大学と小学校は有機的に結びついています。毎年春と秋に行われる教育実習、卒業論文の資料収集などで学生はひんぱんに学校を訪れるし、大学スタッフも教育研究のため、直接授業に参加することもあります。もちろんこうした大学側からの働きかけだけでなく、小

◀ なわとび集会



学校側からも積極的に大学のもつ機能を取り入れた授業を行う工夫をしています。

特に美術や体育の授業にはよその学校には見られないような最新の試みを取り入れています。

また、学校外でも大学サークルの学生と児童との結びつきはさかんに行われています。

心やさしい

健康児たち

附属小には寒がりっ子が一人もいません。

というのも「うす着のすずめ」を全校で行っているからです。昨年の夏から「半そで・半

附属小の二つの顔

都留文科大學附属小学校

わたしたちの学校は附属小学校です。

附属小学校は普通学校とおなじ教育活動をしなが、都留文科大學附属学校としてのはたらきをしなくてはなりません。

◎普通学校としての「はたらき」
一、じょうぶな子を育てる

「ズボン」を子どもにすすめてきており、寒中も日課となっている朝のマラソン・なわとび集会は「半そで・半ズボン」です。

もちろん体育の時間もそうです。

おかげでインフルエンザの影響はありましたが、学校、学級の閉鎖はありません。

また健全な精神は肉体を鍛えるだけでは宿せないとして美しいものを見て、素直に美しいと感じる心を育てるため理科の観察も合せて、学校園を花で飾っています。

このほか自然愛護のやさしい心根を持つてほしいと、小鳥の巣箱づくりなどもさかんに行っています。

二、明るく心の美しい子どもを育てる。

三、よく考える子どもを育てる。

この三つのことを中心に、「たすけあう子ども」「ひとりだちのできる子ども」を育てるため、何よりもまず子供側の側についた教育を実践して

心やさしい健康児たちは、恵まれた自然環境のなかでいま、ノビノビと育っています。



▲1.2年生全員のパンジーで卒業をかざります。

います。◎附属学校としての「はたらき」 私たちの学校は、都留文科大學の先生方と連絡をとって大學の先生や学生に学校を開放しています。

これは子どもをモルモットにしての実験研究ではありません。

教育的に子どもを必ずよくする、という考えで大學の先生の理論を本校の先生が実際に教えて行くという方法をとっています。

その内容は、子どもの体のこと、生活のこと、授業のことなどです。

最近では、大學の先生が家庭科の研究をしています。子どもに新しい靴下をはかせ、そのよこれと洗たくの研究をしながら、子どもには洗たくの学習をさせています。

また、大學のクラブ活動にも協力しています。

例えば、昨年の秋はユースホステルクラブと千代田湖のユースホステルに一泊しました。このことで子供は、ユースホステルの使い方、旅のあり方、また集団活動のしかたを楽しく学びました。

このように附属小学校は、二つの面から教育理念の追求を行っています。